比喩理解に及ぼす解釈の適切性と比喩の親しみやすさの影響

○岡隆之介¹・森島泰則²(¹京都大学大学院教育学研究科・²国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科)

キーワード: 比喩, 親しみやすさ, 解釈の適切性

The Effect of Aptness of Interpretation and Familiarity on Metaphor Understanding

Ryunosuke OKA¹, and Yasunori MORISHIMA²(¹Graduate School of Education, Kyoto University, ²Graduate School of Art & Sciences, International Christian University)

Key Words: metaphor, familiarity, aptness of interpretation

目 的

私たちは「AはBだ」形式の比喩表現を理解するときに、主題(A)と喩辞(B)の関係の中から重要な特徴を発見して、その特徴と一致する内容を理解している (Glucksberg & Keysar, 1990)。特に、比喩を理解する際は主題のカテゴリーと関連する喩辞の内容が活性化され、そうでないものが抑制されて比喩の意味として理解されることが知られている (Gernsbacher, Keysar, Robertson, & Werner, 2001)。

しかし、先行研究では喩辞のもつカテゴリーの中でも字義的にあるいは比喩的に顕著な特徴のみが対象とされており、比喩を読む際に感じる喩辞の複数の意味のこういったものが選択的に活性化しているのかは明らかにしてこなかった。本研究では比喩表現の理解に影響を与える重要な変数として比喩の親しみやすさ(表現にどれくらいなじみを感じるか)と、喩辞のもつ特徴の適切性(主題との関連の強さ)を反映すると考えられる比喩の解釈の適切性に注目し、それぞれが比喩呈示後の解釈の理解に影響を与えるかを2つの仮説に基づいて検討した。

仮説1: 親しみやすさが高い比喩の方が、親しみやすさが低い比喩よりも理解しやすい

仮説2: 比喩に対する適切性が高い解釈の方が、適切性が低い解釈よりも理解しやすい

方 法

参加者 大学生42名(男性:16名, 女性:26名, 平均20.95歳)を対象とした。

実験刺激 平・中本・楠見(2007)が実験で使った10種類の比喩と、その解釈10種類を対象に行った予備調査によって集められた比喩とその解釈を用いた。予備調査では本実験に参加していない大学生30名を対象に、(1)それぞれの比喩の親しみやすさ(7件法)と(2)それぞれの比喩の解釈の適切性(7件法)で回答を求めた。本実験で使用する刺激として用いる比喩は、解釈の適切性の上位2文と下位2文の差が最も大きい順に3つずつ選択した。これらの比喩の解釈文は、解釈の適切性上位2文と下位2文の間に1/2SD以上の差があり、十分に解釈の適切性が区別できていると考えた。以上の分類により集められた実際の刺激を表1にまとめた。

手続き 参加者は初めて比喩表現を呈示された。参加者はここで意味を想像してからスペースバーを押した。次に500msの間注視点(「+」)が表示されて、すぐに比喩の解釈が表示された。参加者はここで呈示される解釈が、先行呈示された比喩の解釈として理解できる場合はキーボードのFキーを、理解できない場合はKキーを押した。本実験の前に、予備調査の結果本実験に使用しなかった比喩文とその解釈文を使って16回の練習試行を行った。また、刺激の呈示と反応の記録はCedrus Superlab ver.4.0によった。

従属変数 比喩表現に対する反応時間(ms)と、比喩表現の解釈に対して理解できたという反応および反応時間(ms)を従属変数とした。比喩表現に対する反応時間は、その比喩表現が

表1: 本実験で使った比喩とその解釈文

親しみやすさの高い比喩	解釈適切性高群	解釈適切性低群
時間はお金のようだ	貴重な 大切な 思い込んでしまう 冷静な思考ができなくなる 慎重に扱う必要がある 人を傷つける	使うものだ 使わなくてもなくなる すぐにはならない 一時的なものだ 人を従わせる どちらも機関統のように速い
親しみやすさの低い比喩	解釈適切性高群	解釈適切性低群
知識はアクセサリのようなものだ	価値がある 身につける物だ 色々な意見が積み重なる 自分の考えを組み立てる 価値がある 重要だ	見せかけだ なくても生きていける くずれるものだ 手を抜くことができる なくても生きていける いつか使ってなくなる

表2: 親しみやすさごとの比喩表現に対する反応時間(ms)(N=40)

親しみやすさ	M	SD
高い	2204	1050
低い	2633	1316

表3: 各群の解釈文に対する正反応の反応時間(ms)(N=25)

親しみやすさ	解釈の適切性	M	SD
高い	高い	4159	1414
高い	低い	5589	2114
低い	高い	5031	2337
低い	低い	6253	2396

初めて表示されたときの反応時間を対象とした。

結 果

比喩表現の読解時間の分析にあたり、実験機材の不具合で中断した参加者1名と、各群で2つ以上の比喩表現においてはずれ値($M \pm 3SD$ 以上)だった参加者1名を以降の分析から除外した。はじめに、親しみやすさごとの比喩表現に対する反応時間を分析した(表2)。参加者内t検定の結果、親しみやすさの高い比喩は親しみやすさの低い比喩よりも反応時間が速かった($t(39) = 2.95, p < .01$)。

次に、比喩の解釈に対してそれぞれの群で2つ以上の解釈に対して正反応(理解できると反応)した参加者を対象に、解釈文に対する反応時間を求めた。この条件にあてはまる参加者は25名を有効データとして分析対象とし、各群の解釈文に対する正反応の反応時間を分析した(表3)。解釈文に対する正反応の反応時間(ms)を従属変数として被験者内分散分析をおこなった結果、比喩表現の親しみやすさと解釈の適切性に交互作用は見られなかった($F(1,24) = .75, n.s.$)が、比喩表現の親しみやすさと、解釈の適切性の主効果はそれぞれ有意であった(順に、 $F(1,24) = 4.53, p < .05$, $F(1,24) = 15.38, p < .001$)。

結 論

以上の結果から、仮説1と仮説2はともに支持された。比喩表現に対する反応時間の比較から、親しみやすさが比喩の理解のしやすさに影響を与えていることが先行研究(平・楠見, 2005)と同様に確認された。また、解釈の反応時間の比較から、主題に対して適切性の低い解釈は、適切性の高い解釈よりも理解しづらくことが確認された。

引用文献

平知宏・中本敬子・楠見孝 (2007). 比喩理解における親しみやすさと解釈の多様性. 認知科学, 14, 3, 322-338.